３．まとめ

調査結果の前提として高齢者の回答が全体の約８割を占め、さらに 75 歳未満の比較的活動的な層の回答が多いこと、障害者の回答は約 1.5 割で、なかでも視覚・聴覚障害者の回答が少なかったことに配慮する必要があります。このため、タウンウォッチングなどの住民参加の機会において、障害者のニーズを把握していく必要があります。

「最寄り駅やバス停までの道路」「京阪バスの乗り降り」「JR 河内磐船駅・京阪河内森駅」の利用のしやすさについて、障害者（なかでも車いす利用者）や妊産婦の満足度が低くなっています。移動の際の問題についての質問から明らかなように、歩道の整備やエレベーター整備、子どもと一緒に入れる・車いすで利用できる便所の整備等を通じて満足度を高めていくことが求められています。

これらの取り組みによって、移動制約者の公共交通利用が促進され、外出頻度が高まることによって社会参加を進めていくことが期待できます。